

目標達成計画

作成日: 平成 29年 4月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は毎月実施できているも、地域住民が参加しての訓練の開催に至っていない。非常時においては地域住民の協力は不可欠である。	地域住民と地元消防団にも協力していただき、避難訓練を実施する。	消防署立会訓練時最低1回は地域住民と地元消防団へ参加協力を依頼し、住民参加型の避難訓練を開催する。また消防署から訓練の講評を頂き消防マニュアルに反映させていく。	12ヶ月
2	26	ケア会議で職員の意見も反映して介護計画を作成し、その計画に沿った支援も適切に実施できているが、介護計画にリンクした記録の取り方ができていない。記録方法の改善が必要。	介護計画に沿った支援の実施状況が把握できる記録をとる。	支援記録改善に向けた取り組みを行う。 ①介護計画に沿った支援の確認機会を増やす。(ケア会議) ②支援記録様式の変更行う。 ③記録時間の確保を行う。	12ヶ月
3	2	同法人内の施設が主催する行事への参加や散歩や買い物の際に挨拶を交わす程度の地域交流に留まっている。今後事業所の機能を生かした交流を取りいれていく必要がある。	地域との交流機会を充実させる。	地域交流を増やすための取り組みを行う。 ①近所で行われるクリーン活動やボランティア活動などに参加する。 ②施設主催の行事を企画し、地域の方を招待する。 ③施設で毎月発行している広報誌「峰の杜便り」を近隣の社協や温泉など置くことで、開かれた施設づくりを行う。	12ヶ月
4	36	夜間のみ使用のポータブルトイレをそのまま日中も目に付く状態で置いていた。差恥心への配慮が足りなかった。	利用者様一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮する。	ポータブルトイレを使用しないときにはカバーをかけることでプライバシーへの配慮を講じた。	達成済み